

平成29年度テーマ研究まとめ

平成30年3月12日

内容

1. H29年度のテーマ研究まとめ

① アンケート結果

② 成果と課題

③ H30年度の研究

2. 各学部の実践報告

H29 テーマ研究 主題

「主体的に学ぶ児童生徒の育成を目指す

授業の在り方

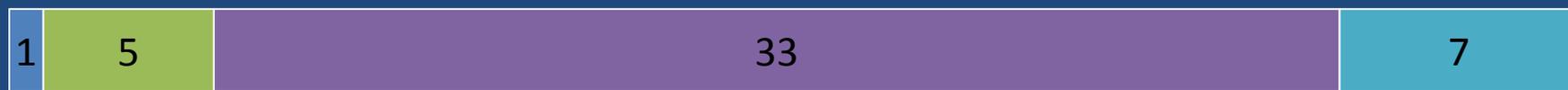
～主体的に学ぶ姿を引き出す授業実践を通して～ 」

1. H29年度のテーマ研究まとめ ① アンケート結果

全体に関わるものについて

① 2学期の講話などを通して、新学習指導要領の内容や方向性について、理解が深まりましたか。

■ 0無回答 ■ 1全く ■ 2あまり ■ 3まあまあ ■ 4とても



- ・ 3まあまあの割合が高く、半数(23)を大きく超える。
- ・ 平均2.97

ある程度の情報は得たが、具体的には？

② 各学部の事例報告を聞いたり、実践事例集を読んだりして「児童生徒の主体的に学ぶ姿」について、理解が深まりましたか。



- ・ 平均3.36

授業実践，授業研究等の取組の影響

1. H29年度のテーマ研究まとめ ① アンケート結果

学部に関わるものについて

① 授業実践を行った方(CT, ST)は、授業実践を通して、「児童生徒の主体的に学ぶ姿」について理解が深まりましたか。〔授業を行っていない方は、0を記入。〕

・ 実践を行った解答で平均, 3. 43



④ 授業研究を通して、「児童生徒の主体的に学ぶ姿」を引き出すための手立てについて、理解が深まったり、新たな知識を得たりすることができましたか。

・ 平均3. 47



⑤ 学部での共通理解をとおして、「児童生徒の主体的に学ぶ姿」を引き出すための手立てについて、理解が深まったり、新たな知識を得たりすることができましたか。

・ 平均3. 26



主体的に学ぶ姿の捉え, 授業実践, 教師間の連携

1. H29年度のテーマ研究まとめ ① アンケート結果

その他

⑥ 実践事例集を執筆することは、授業実践をまとめるために効果的でしたか。

・ 平均3.23



⑦ 各学部の事例報告を聞くことは、各学部の成果を共有するために効果的でしたか。

・ 平均3.43



⑧ 今回の研究で学んだことは、今後の実践に生かすことができますか。

・ 平均3.41



◎授業実践, △見やすさ, 配布時期など

成果

授業研究, 授業改善・・・35	授業力の向上・・・・・・32
個人目標の設定・・・・・・13	個別の手立て・・・・・・29
個人目標の評価・・・・・・10	新学習指導要領の理解・・ 5

授業改善, 授業力の向上



児童生徒の主体的に学ぶ姿を
引き出すことにつながる。

課題

授業研究, 授業改善・・・11	個別の手立て・・・・・・・・8
新学習指導要領の理解・・・27	指導略案の内容・・・・・・・・2
実践事例集の内容・・・・ 4	作業量が多く時間が掛かる・・・5

新学習指導要領については、前述のとおり、
成果とも課題とも捉えられている。

H30年度の研究

教育課程, 年間指導計画・・・20	個人目標の設定・・・・ 6
個人目標の評価・・・・ 4	指導内容・・・・17
指導方法・・・・ 1	個別の手立て・・・・10

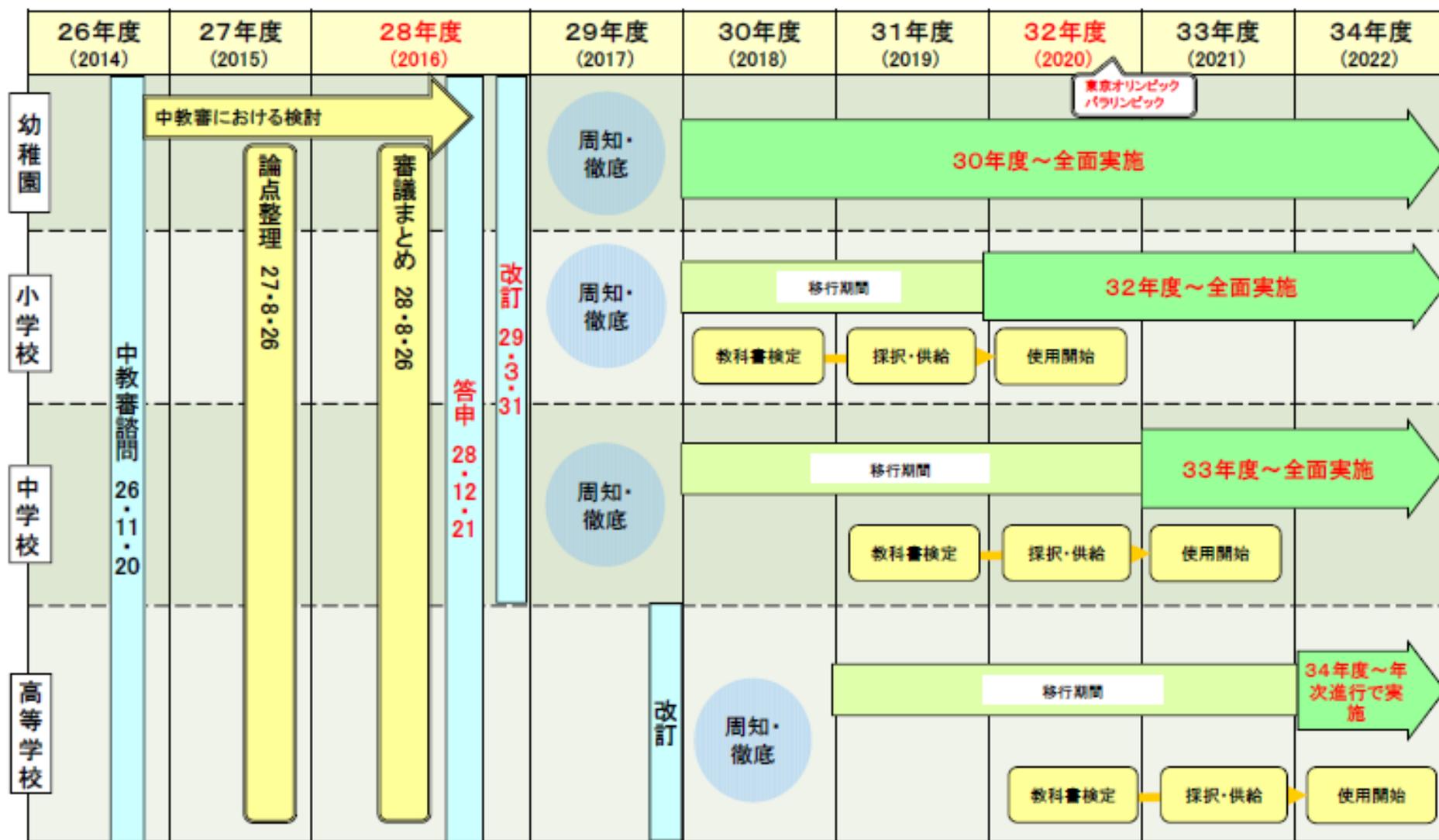
その他

- ・具体的な授業のアイデアが
 - ・個人目標が
 - ・新年度に向けてじっくり計画に
- つなげていっていると考えています。
- ・せっかくなので今年度の継続はどうでしょうか？手立ての工夫や子供たちの主体的な姿はまだまだ研究できそうです。
 - ・教師の人間関係の在り方

新学習指導要領
教育課程
年間指導計画

授業実践
授業改善

今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール（現時点の進捗を元にしたイメージ）



特別支援学校学習指導要領（幼稚部及び小学部・中学部）についても、平成29年4月28日に改訂告示を公示。
特別支援学校学習指導要領（高等部）についても、高等学校学習指導要領と一体的に改訂を進める。

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※高校教育については、従来の事後的知識の確記が大学入学資格試験で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

4観点から3観点へ

観点別学習状況の評価について

- 学習評価には、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能。
- 各教科においては、学習指導要領等の目標に照らして設定した観点ごとに学習状況の評価と評定を行う「目標に準拠した評価」として実施。
⇒きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

学力の3つの要素と評価の観点との整理

【現行】

学習評価の4観点

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

【以下の3観点に沿った整理を検討】

学力の3要素 (学校教育法) (学習指導要領)

知識及び技能

思考力・判断力
・表現力等

主体的に学習に
取り組む態度

学習指導と学習評価のPDCAサイクル

- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要。

指導と評価の一体化



2. 各学部実践報告

小学部

13の授業を行い、児童の主体的に学ぶ姿を引き出すための手立てについてグループで検討しました。

効果的な手立て	下学年	一斉での説明で理解できる児童と注意をひきながら説明することが必要な児童⇒個に応じた手立てが有効であった。 子供たちの興味・関心に基づいた教材が、主体的な姿を引き出しやすい。 日常のやり取り、日常の活動の流れを授業に取り組むことで見通しがもちやすい。 劇的に印象に残る導入が効果的であった。
	上学年	見通しをもつための子供に伝わる手立て(動画, 写真, イラスト, 文字, 計画表, 手順表・・・) 実態に応じたグループ編成
	重複	実態, 興味・関心に即した教材・教具の準備 使用する素材, 提示の仕方, 十分に活動できる時間が重要である。 繰り返しの大切さ, 日常の活動の中でも繰り返すことで安心して取り組むことができる。 主体的な学び・動きを引き出すための姿勢の保持 諸感覚の特性を意識した授業作り 子供の予想を裏切る驚き・意外性のある導入
課題	下学年	見ている子供たち, 待っている子供たちを授業に引き込む工夫(友達の活動の様子が見える座席配置など)
	上学年	主体的な学びにつながる学習のルールの伝え方 学ばせたいことの明確化(学習の中でどんな学びを育みたいか, 子供たちにも伝える)
まとめ その他	下学年	活動を繰り返すことが主題的な学びにつながる⇒指導計画の工夫(やってみた課題を生かして次時の授業を構成する) ビデオを用いての授業研究は, 授業者が気付いていない子供の姿にも気付くことができたので良かった。
	上学年	子供たちが主体的に学んでいるからこそ, 新しい課題が発見される。

まとめ

- ・児童の主体的に学ぶ姿を引き出すためには、「見通しをもつこと」「教材・教具」「意欲を高める」の視点が大切である。
- ・「見通しをもつこと」では、学習集団・実態に合わせて伝え方、伝わる工夫や個に応じた働き掛け、繰り返し取り組む機会があること、友だちの様子を見て学ぶこと等を大切にしたい。
- ・「教材・教具」では、個に応じた工夫や諸感覚に働き掛ける教材・教具を大切にしたい。
- ・「意欲を高める」では、導入の工夫(分かる, 必然性がある, 予想と結果, 意外性)などを大切にしたい。

2. 各学部実践報告

中学部

1 研究の方法

中学部では、国語・数学を実態に応じた6つのグループに分けて学習に取り組んでいる。今回はその中で5つのグループで研究チームを構成し、教科を国語・数学に絞って研究に取り組んだ。授業については、2回行い、その後研究チームごとに授業についてまとめた後、学部で共有した。

2 目指す主体的に学ぶ姿についての指導・支援について

それぞれの研究チームごとに1授業につき、対象生徒を2人選んだ。その生徒についての実態把握を行った後、目指す主体的に学ぶ姿を設定し、生徒のそうした姿が授業中の教師の指導・支援によって引き出せるように、指導内容及び指導法について全員で協議し、授業を行った。中学部テーマ研究係が、各研究チームの目指す主体的に学ぶ姿に対してどのような指導・支援を行ったかについて集約し、以下のように5つに分類した。

興味・関心に関すること

- ・身近なものを取り入れた内容やワークシートを使う。
- ・友達と一緒に学習することで意欲を高める。

見通しをもつことに関すること

- ・本時の学習内容を提示する。
- ・めあてを提示する。
- ・説明を聞く、プリントに取り組む、発表をする、聞く等の切り替えを伝える。

教材・教具の活用に関すること

- ・使い方が分かりやすい教材・教具であること。
- ・操作しやすい教材・教具であること。

主体的に学ぶ姿

内容を理解することに関すること

- ・説明を聞く、プリントに取り組む、発表をする・聞く等の切り替えを伝える。
- ・授業の約束を確認する。

発表などの表現力に関すること

- ・発表しやすい雰囲気をつくること。
- ・友達と一緒に発表する。
- ・教師と事前に発表内容を確認する。
- ・できたことを称賛する。

中学部

3 まとめ

生徒が自分から主体的に学ぶ姿を引き出すために、様々な指導・支援の方法について考え、共有することができた。今後の指導に生かせる実践集になればと思う。

高等部

- 1 主体的に学ぶために手立てとして有効だったこと
 - ・ 視覚的支援(写真カード, 文字カード, 絵カード, 工程表, 車体表, カード, シール, 作業チェック表, タイマーなど)
 - ・ 聴覚的支援(タイマー, 言葉掛けなど)
 - ・ 作業の数値化
 - ・ 一人一人の実態に応じた作業内容
 - ・ 生徒に選択させる場面の設定
 - ・ 得意なこと, 作りたいものを作ること
 - ・ 褒めること
 - ・ ロールプレイ
 - ・ 目標の設定のしかた
 - ・ 作業日誌の活用
 - ・ 生徒同士のペア
 - ・ 担任との連携

上記の手立てを使うことによって, 生徒が見通しをもち主体的, 意欲的に学ぶことができた。

高等部

2 課題

- 支援ツールをいつ、どこまで使うのか→少しずつ減らしていけるか
- 支援ツールとしてふさわしいか(本当に使いやすいのか、生徒が分かりやすいのか)
- 生徒同士の関わりをどう考えるか
- 作業の精度や仕上がりが自分たちで確認できるような支援ツール
- 時間いっぱいできるための支援ツール